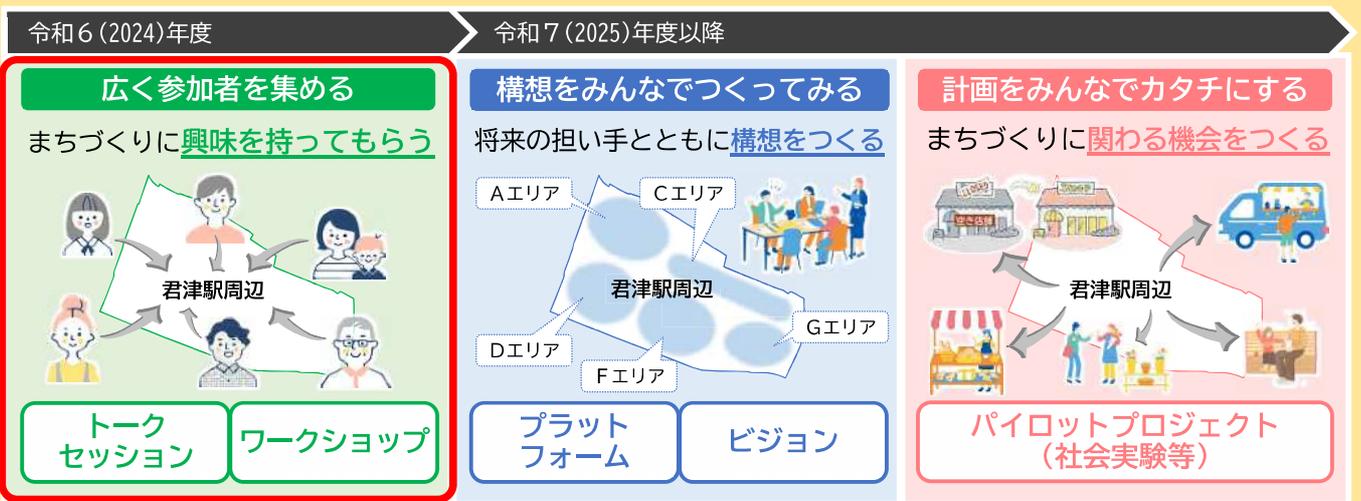


君津駅周辺 まちづくり の取組報告

令和6年度

- 君津市では、君津駅周辺の活力が低下している状況を改善するため、行政と民間が連携してまちの課題解決や魅力向上に取り組む「公民連携」のまちづくりを目指しております。
- 令和6年度は、まちづくりの関係者が協議する場・組織（プラットフォーム）の立ち上げに向け、まちづくりの機運を高める取り組みを実施しました。具体的には、君津駅周辺のまちづくりに興味を持ってもらうため、様々な関心層の参加者を広く集めることに注力し、トークセッション及びワークショップを開催しました。

【令和6年度の取組の位置づけと概要】



まちづくりトークセッション

■テーマ

まちの魅力をつくる・はぐくむ

■ゲストスピーカー



■当日の様子



まちづくりワークショップ

■テーマ

これからの君津を考える

■当日の様子



君津駅周辺まちづくりトークセッション

まちの魅力をつくる・はぐくむ

開催報告

◆開催概要

「まちの魅力をつくる・はぐくむ」をテーマに、君津駅周辺のまちづくりを市民とともに考えるトークイベントを開催しました。様々なエリアでまちづくりに取り組む3名のゲストのお話を聞きながら、「君津」が楽しいまちになるためのアイデアを考えました。

【実施日時】 2024年11月24日（日）14:00～16:00

【会場】 君津市立中央図書館視聴覚室

【参加者数】 61名

【プログラム】

第一部 地域の担い手とともにまちづくりを考える

様々な人が集う拠点づくりを実践する3名のゲストスピーカーに、取組事例を紹介していただきました。

第二部 君津のまちづくりを考える（クロストーク）

ゲストのお話をうかがいながら、君津が楽しいまちになるためのアイデアを発掘しました。

第三部 Q&A 質疑応答

参加者のみなさんから、ゲストのお話を聞いて気になったこと、もっと知りたいことを質問しました。



【出演者の紹介】



マルシェと那須黒磯のまちづくり

宮本吾一さん
(GOOD NEWS)

屋台カフェの「リアカーコーヒーUNICO」や、ハンバーガー専門店「Hamburger Cafe UNICO」など多くの事業を手がけ、那須地域のマルシェ「OrganicParty」「那須朝市」を開催。2014年「Chus」、2022年「GOOD NEWS」を開業（同代表取締役現任）。「バターのいところ」「BROWN CHEESE BROTHER」などサステナブルな自社プロダクトも手掛ける。



つくるまちをつくる

小野裕之さん
(下北沢BONUS TRACK)

ソーシャルデザインをテーマにしたウェブマガジン「greenz.jp」を運営するNPO法人グリーンズの経営を6年務めた後、2020年下北沢に現代版商店街「BONUS TRACK」を開業。マスターリース運営会社 株式会社散歩社の代表取締役CEOに就任。グッドデザイン賞ベスト100(2021年)。



二地域居住からみえるもの

馬場美織さん
(南房総リパブリック)

大学院修了後、建築設計事務所勤務を経て建築ライターへ。東京と南房総の二地域居住を続け、2012年にNPO法人南房総リパブリックを設立（同代表理事現任）。親子で自然学習する「里山学校」、食の2地域交流、復興支援「ボランティアからファンへ」など手掛ける。2023年よりケアのプラットフォームneighbor共同主宰。



まちの担い手を巻き込む

糸山真人さん
(リライト)

博士（工学）。2000年東京工業大学社会工学科卒業、2002年同大学院修了。2008年リライト創業、同代表取締役就任（現任）。商業施設における賑わいのデザインを通じて、民間の立場で「新しい公共のあり方」を考える。2022年より東京女子大学現代教養学部国際社会学科コミュニティ構想専攻特任教授。

◆実施報告

【第一部：地域の担い手とともにまちづくりを考える】



マルシェと那須黒磯のまちづくり 宮本 吾一さん (GOOD NEWS)

<理念と地方課題の解決策>

- 栃木県的那須高原で「食でしあわせをつくる」理念のもと、地方が抱える人口減や労働力不足の課題解決を産業にすることをミッションに取り組む。
- 課題を産業にするには、地域特有の物語を見つけてそれを活かすアプローチが重要。

<ナラティブ（物語）を活かした成功事例>

- 地方特有の物語を活かした事例として、地域の生産者や小商いの人達と連携した那須塩原市のマーケットイベントを紹介。ポイントは良いコンテンツのある小商いの人達を集めること。那須塩原駅の駅前は何もないが、良いコンテンツを集め、有料イベントで収益化することで、全国から人が集まる場に変えることができています。

<小さな店の連携と発展>

- 約35年前に創業した小さなカフェが品質とサービスで全国からファンを呼び込み、そのファンが隣接地に店舗を開くことでさらに賑わいが拡大した事例紹介。
- 小規模店舗が集まることで街の賑わいが生まれ、地価が上がらない環境が若者の起業を促進している。



つくるまちをつくる

小野 裕之さん (下北沢BONUS TRACK)

<おにぎり屋「アンドン」と地域連携の実践>

- 若い頃のキャリアとしてウェブマガジンの編集者を経験し、地域の魅力発信や課題解決方法を紹介する記事の作成に従事。
- ウェブマガジンで得た知識と関係をもとに、秋田の農家やお米屋さんと協力して「ANDON（アンドン）」というおにぎり屋を開業。
- 昼はおにぎり屋、夜は日本酒バーとして、地域の特産品を活用した店舗経営を通じて実践的なまちづくりを展開。

<「下北線路街」のまちづくりプロジェクトとベンチャー企業誘致の提案>

- 下北沢の線路地下化プロジェクトに関わり、元線路跡に商店街「ボーナストラック」を設立し、小商いの集積による新しい賑わい空間を創出。
- 君津市に対しては、製造業だけでなくベンチャー企業の誘致や、空き店舗・駐車場を課題ではなく資源として活用する新しいアプローチを提案。



二地域居住から見えるもの

馬場 未織さん (南房総リパブリック)

<地元と移住者の視点やニーズの違いを活かした取り組み>

- 世田谷区と南房総の二地域居住を18年間実践し、NPO法人南房総リパブリックを運営。
- 都市生活者と地元住民の求めるものの違いを理解し、異なる視点を活かして地域の発展を目指す。
- 地域内外の人々と協力してカフェを設立し、持続可能な地域づくりを実現する「オレたちのよぜむカフェプロジェクト」などの事例紹介。

<地域の魅力をPRする新しい方法>

- 地域の自己PRはどこも同じ。自己PRよりも、ファンの推し活が魅力を広めてくれる。
- 自分も関係人口になることで、繋がりが広がっていく。

<コミュニティ作りと福祉の重要性>

- 福祉のプラットフォーム「neighbor（ネイバー）」の立ち上げや「コーヒーと血圧計」などの活動を通じて地域福祉を推進。大事にされる感覚を育むことで個人間のつながりが強まり、地域全体の連携やコミュニティ形成が進んでいる。

【第二部：君津のまちづくりを考える（クロストーク）】

●自治体との連携エピソード

馬場 地域で何か新しいことを始めるとき、自治体と連携していることは市民に安心感をもたらし、事業が進めやすくなるメリットがある。しかし、職員の異動により事業がうまく継続できないこともある。

宮本 連携経験はないが、行政主導ではなく、やりたいという人をやりやすくするというのを行政が後押しする形が望ましい。

小野 民間と行政が適切にリスクを分担することが重要。民間が適切なリスクをとって商売して稼ぎが出る事業もあれば、公的な資金を一部入れてやらないといけない事業もある。



●君津駅前のポテンシャルや課題

小野 課題となっている駐車場や空店舗を地域資源として活用し、新しいビジネスや賑わいを創出する方法はある。下北沢の事例では、不動産オーナーの協力を得て、賃料を安価にし、地域の未来と一緒に作るテナントを選定している。また、まちづくりには計画よりも人材重視のアプローチが必要。特に若い世代が持つ熱量や感性を信じ、大人たちがサポートすることが重要である。ただ、サポートする中で当事者の本気度を見極めることは必要。商売として成りが難しそうな場合は、地域の人たちが資金を出し合っって初期投資を行い、当番制で運営するようなアプローチもあると思う。

馬場 君津駅前に人がほとんどいない。同じ課題がある館山駅前では、空きビルを地元の方が民間のパブリックスペースとしてリノベーションすることで駅前の顔が変わりつつあり、再活性化に成功している。同様のストーリーが君津でも描けるのではないかな。

宮本 駅前が空いているのはチャンス。ニーズがアンケートで既に特定されており、賑わいが求められている。安い家賃で小さく始めることで、関心を引き、成功の可能性が大いにある。君津は平均年収や人口が多く、都心からのアクセスも良い。誰も始めていないだけであり、商機は大きいと感じる。駅前だけでなく、市役所周辺など、既に人が集まる場所も活かすと良いかもしれない。



●初めてのマーケットイベントについて

宮本 24歳のときに、ただやりたいという気持ちだけで一人で始めた。自分の店の駐車場を使い、農家さんたちに軽トラックで野菜を積んで来てもらった。チラシを作っただけだったが、初回から何百人もの人が訪れ、野菜の魅力を強く感じた。非常に楽しかったが、イベントの成長とともに運営が大変になり、持続可能にするためには有料化や参加人数の制限が必要だと感じた。

馬場 私も以前マルシェを開催していた。楽しかったが、新たな仲間と違うことを始めたのも良かった。街が循環し、担い手が変わるのには良いことだと思う。

小野 マーケット以外のイベントも有り得る。少人数の団体を作り、少額を出し合っって講師を招くなど、自力で情報を得ることが大事。今日の繋がりをきっかけに、個人的に連絡を取ったりすることが活動の本質だと思う。

宮本 コミュニティができることで、多様な取り組みが可能になる。他の活動に発展することが重要。

馬場 市役所の職員がコミュニティに参加すると、更に良い効果がある。個人的な輪が広がり、市役所の人も動きやすくなる。

●まとめ

糸山 今日のような場が一步を踏み出すきっかけになると良い。また、行政が後押しする状況が整えばさらに理想的だと思う。



【第三部：Q & A 質疑応答】

Q 君津市はもっと素晴らしい市になる可能性がある。行政が企画して変えるべきではないか。

小野 行政計画には安心感もあるが、現代では全部を市が直営することは不可能なので、民間がリスクを取って商売をすることが重要。行政がトップダウンでビジョンを掲げる旧来の方法ではなく、市民主体や民間主導でどうやってリスクを分散し、下支えできるかを模索している状況だと思う。

Q オリジナル商品を作っているが、マルシェに出店しても売れない。対処方法はあるか。

宮本 お客さんがどんな人で、いくらなら売れるかを徹底的にリサーチした上で適切なマーケットに出店することが重要。

萩山 ターゲットが最も多く集まる場所を狙うのが近道。オンライン販売の方が売れる可能性もある。

Q イベントをしても影響が続かない。観光地でもなく人も来ない。君津駅をどうやって改造すべきか。

宮本 マーケットを行う際に大事なのは、ローカルの人にどう来てもらうか。那須は観光地だが、地元の人が賑わいを作り、それが温まると観光客が来るという流れ。地元の人を中心にすることで活性化が進む。

Q 君津市を盛り上げようとするコミュニティが立ち上がっている。共感を広げるためのコツや実践してきたことはあるか。

小野 共感を目的にせず、個人がやりたいことを応援し合う関係が健全。個人の夢を達成することで、それが結果的に共感を生む。最初から大きい議論ではなく、小さく個性的な活動を取り入れることが重要。

【石井市長からの総括】



・下北沢の街を見た経験から、街の形成には市民一人ひとりの関わりが大切と実感しました。大きな施設を作るだけではなく、個々がやりたいことを達成できる環境を整えることが大事です。君津では清和地区の「トラック市」や久留里の「ええもんいち」が始まり、それぞれの地域で活発に活動されています。

・君津の駅前に賑わいを取り戻す方法を皆さんと一緒に考えたい。高校生たちも居場所を求めています。それをどのように実現するか、行政が一方的にリーダーシップを取るのではなく、皆さんと対話を重ねながら、共に考えていきたいと思います。

◆当日アンケート結果（抜粋）

- ・回収数：47件
- ・本イベントの満足度は約60%で、約70%の方に君津駅のまちづくりへの興味を持っていただけました。
- ・特にゲストのプレゼンテーション（約49%）、クロストーク（約45%）が参考になったとのご意見をいただきました。
- ・君津駅周辺のまちづくりビジョン作成に向けて、26名の方からご協力の意向をいただきました。
- ・そのほか、君津駅周辺まちづくりに関するたくさんのご意見をいただきました。

出演者のみなさん、
参加者のみなさん、
ありがとうございました！



【問合せ先】君津市 建設部 建設計画課

TEL：0439-56-1261 FAX：0439-56-1626

E-mail：kensetu@city.kimitsu.lg.jp

「THINK KIMITSU!」を題材に13名の参加者が、これからの君津を実現するためにどんな方法を取ればいいのか、意見を出し合いました。

【参加者が考えるこれまでの君津】

- ✓ 駅前が寂しい
- ✓ 若者が外に出て行ってしまふ
- ✓ 地元の魅力が活かされていない
- ✓ 高齢者が暮らしづらい

【参加者が考えるこれからの君津】



若者が集まる場所が少ないよね。

若者向けの店やワークスペースを増やして、彼らが住み続けるようにしましょう。

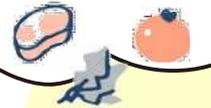


君津駅前がなんか寂しい感じするよね。空いてるスペースをうまく使って、イベントやキッチンカーでにぎわいを作れば効果あるよね。

新しいビジネスを始めたい人に支援ができればいいな。ハードルが低くなれば、新しい事業が生まれるんじゃないかな。



地元の魅力をもっと発信する仕組みが必要だね。君津の農業とか食、文化をもっと発信して観光客を呼び込めば、地域も賑やかになるんじゃないかな？



高齢化への対策も必要だよな。医療機関が増えて、移動もしやすくなれば、高齢者も住みやすい街になると思うな。



子どもたちが遊べる場所や学べる場所が少ないから、空き家を活用したフリースペースや、eスポーツやカードゲームが楽しめる場所があったらいいかも。



紹介した意見のほかにも、君津駅のまわりを良くするための色々なアイデアをいただきました。ワークショップを継続して、これからの君津についてもっと考えていきます！

【問合せ先】君津市 建設部 建設計画課

TEL: 0439-56-1261 FAX: 0439-56-1626

E-mail: kensetu@city.kimitsu.lg.jp



きみぴょん

THINK KIMITSU!

あなたが考える
これまでの君津



あなたが考える
これからの君津